

平成15年1月29日 <140号>

神奈川県水産総合研究所

〒238-0237 三浦市三崎町城ヶ島養老子

TEL 046-882-2311 FAX 046-881-7903

<http://www.agripref.kanagawa.jp/suisoken/index.asp>

同 相模湾試験場

〒250-0021 小田原市早川 1-2-1

TEL 0465-23-8531 FAX 0465-23-8532

同 内水面試験場

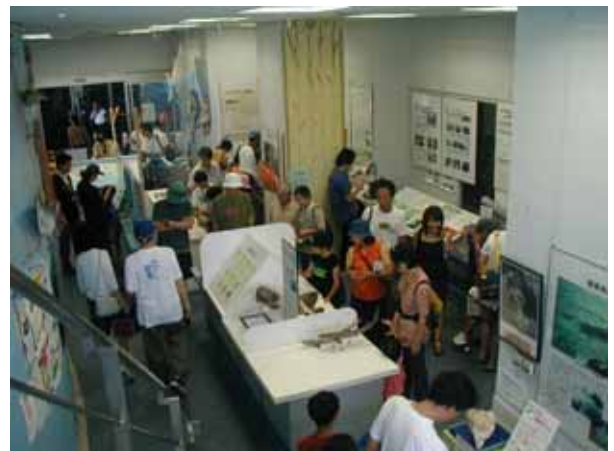
〒229-1135 相模原市大島 3657

TEL 042-763-2007 FAX 042-763-6254

編集：神奈川県水産総合研究所 広報部会

2003.VOL1

水総研情報



平成14年度 施設一般公開（平成14年7月20日開催 1,400人來所）

水総研本所では「海の日」の祝日にあわせて、施設一般公開を実施しました。親子連れやグループなど多くの方が來所され、特設のタッチングプールで生きた魚に触ったり、魚の見分け方や漁具の構造の説明を興味深そうに聞かれ、大いに賑わった1日でした。

- ふれあい特集

本所

遠足見学の穴場？

水総研には毎年多くの小学生が遠足で訪れます。平成14年度は12月末現在、延べ69校、6,054名の児童が海や海の生物、水産業について学習しました。子供たちの海や生き物を愛する心を育むとともに、漁業をはじめとした水産業に理解を深めてもらう目的で行っております。このような取り組みを通じて、将来、水産業を担う人材が生まれるよう期待しております。

この他、消費者団体や一般県民等の各種団体の方々にも随時見学を受け付けおり、こちらは110団体、1,056名の方々が訪れました。

平日の開館中(8時30分～17時)に、見学の希望がありましたらご連絡ください。



かながわ海と生物の教室

出張講師、やっています！

平成14年10月16日厚木市立相川小学校に亀井資源環境部長が講師として招かれ、「地元産の魚介類の観察」の授業を行いました。魚についての知識だけでなく、日頃、生の魚を触ることの少ない子供たちに、実際に魚を手に取り感触を味わってもらうような内容にしました。魚への親しみがわくといいですね。

この他、生産者団体等を始め各種団体のイベントにも招かれ、海や魚、水産業に関することから魚料理の方法まで、各専門の担当者が講演を行っております。

希望がありましたらご相談ください。



小学生の遠足見学

毎年恒例！「夏休みワクワク・海・体験」

海との親しみ方を学ぶイベントとして小中学生とその家族を対象に「夏休みワクワク・海・体験」を毎年夏開催しています。平成14年度は8月20～22日に延べ66名が参加しました。

1日目は「おさかな料理教室」として魚のさばき方から刺身・フライ・干物の作り方、2日目は「海のプランクトン観察」、3日目は「かながわ海と生物の教室」として、プランクトンは水総研の岸壁から、海の生物は城ヶ島の磯で実際に採集を行って、その観察や種類の判別の方法を学びました。その模様はTVKの情報番組「かながわtoday」で紹介されました。



地元産の魚介類の観察

(本所 一色竜也)

相模湾

漁具漁法展を開催！

第43回小田原さかなまつりが、平成14年10月27日(日)に開催されました。会場では漁具漁法展を行い、大勢の一般の方々に賑わいました。この展示会では、魚を獲る道具(漁具)の実物や、その模型を展示して、使い方を研究員が解説しました。更にプロの漁業者らによる実演もあり、昔から伝わる高度な技術と知恵に、来場された方々は驚かれたようでした。



展示室(上)と漁業者による昔の網作業の実演(下)

子供達には生きた水産生物の展示が好評でした。アサリとハマグリを手で触って見分けるコーナーや、箱めがねで生きたイセエビやサザエを探す大型水槽に大喜びしていました。

この他、定置網や底引き網など、漁具の開発改良を行う回流水槽を公開して、実験を行いました。顕微鏡を使って生きたプランクトンの観察も行いました



アサリとハマグリとを分けてみよう



タコツボ



箱めがねでイセエビを探せ！



回流水槽公開実験

相模湾試験場の見学とご利用について

会場では、例年8月に行われる小田原みなとまつりにも参加し、相模湾の水産に関する展示を行っています。小中学生の社会科見学などにも利用され、水産学習の場となっています。一般に利用できる施設として、オープンラボラトリーがあり、魚料理教室などの場所を提供しています(申し込み制)。

施設は平日の開館中(8時30分~17時)に見学できます。



オープンラボラトリー

(相模湾試験場 木下淳司)

内水面

メダカの学校と総合教育

「メダカの学校は川の中…」誰でも知っているあのメダカ、主な生息地であった小川や田んぼの用水路が様変わりし、その姿を消しつつあります。県内では、各地でメダカの保護活動が展開されています。小田原市では、メダカが市の魚に指定されました。市でメダカを増やして市民に配布し、飼育してもらいいわゆる里親制度に取り組んでいます。他にも藤沢市や横浜市、鎌倉市、三浦市等で地域のメダカが飼育下で保護されています。



環境省絶滅危惧種のメダカ



メダカを調査する市民団体
(小田原市農業用水路)

最近、総合教育が積極的に推進され、教育関係者のがんばりが目立ちます。藤沢市では、小学校の先生を中心に、「藤沢メダカの学校を作る会」が結成され、通称「藤沢メダカ」を水槽で保護しながら、教材に活用しています。校庭に、メダカのビオトープを造る小学校も増えました。ピ

オトープとは人工的に作られた生物の生息地を意味します。小学校では土嚢やブルーシート等で生徒達が自ら造ります。メダカは南方起源なので、高水温にも強く、小さなビオトープでも大丈夫です。



メダカのビオトープ (湘南台小学校)

境川での総合教育



内水面試験場では、メダカの飼育、ビオトープの造成指導、総合教育の講師等、メダカ保護活動のバックアップを行っています。また、関係団体と連携して「神奈川メダカサミット」も毎年開催し、活発な意見交換が行われています。最近では、試験場を訪れる小学生も急増し、夏休みはととにぎやかです。

(内水面試験場 勝呂尚之)

